

虹は七色とはかぎらない

アニメやマンガに出てくる虹はとてもきれいで。といつても、アートとして色やデザインが美しいということじゃない。七色のそれぞれの項目がはつきりしているところとで、ある。だからといまでが青でどうからが緑、というのがはつきりしている。境に線を入れている虹もある。

虹と言えば七色だ。内側から順に紫、藍、青、緑、黄、橙、赤、とならんでいる(らし)。虹といえば七色、七色といえは虹である。変幻自在にいろいろな球種を持っているジッチャーが「七色の変化球を投げる」と称されたこともあった。

ところが実は虹は七色ではないのである。というと詰屈があるかもね。日本では七色だと思われてゐるわけだから。でも七色じやない国があるのである。へえー、どういう虹か見てみたい、とお思いの方もいらっしゃるかもしれないが、残念ながら虹はおんなど。日本で見る虹と変わらない。虹に何色あると思われてゐるかが国によつて違うのである。

つまり「いうことだ。虹の色つていうのはよく見ると少しずつ変わってるよね。こいつらっこ今までが黄色、ここからが橙色、といふにはつきり境があるわけじゃない。黄色らしい

黄色から、橙っぽい黄色に少しずつなつていて、橙らしい橙になる(順に見ていくと)。連続してゐるわけだ。そして、そこに人間が「勝手に」区切りをつけているんだね。たまたま日本人は七つの色に区別した。

僕の知る限り、あるいは聞く限り(というのは国によつても個人差があるみたいだから。つまり日本のよう、「虹は七色」が定番になつていない国も多いのである。というか何色だろうがどうでもいいのかもしれない)、中国では四色、アフリカには三色、一色とい

言語もある。そういうと何だか未開な国だなあとお思いかもしないが、アメリカでは六色である。日本でも江戸時代以前は六色だと思われていたようだ。

僕たちはいろんなところで区切りのないものに区切りをついている。それがことばの働きのひとつだ。だから言語が違うとその区切りも違うことは十分にありうることなのだ。日本ではキョウダイのうち、男か女か、自分より年上か年下かを区別している。でも、例えは英語ではbrother-asister-son-nanlder brother-and younger sisterなどと呼ばれてあんまり氣にしてないわけだ。アフリカの言語には年上か年下かだけを区別し、男のキョウダイか女のキョウダイかを区別しないといふものもある。

気をつけなければならぬのは、そういうことばによる区別はいつたん慣れてしまふと、それが「当たり前」になつてしまつて、それ以外の区別もありうることが考えられなくなつてしまふことだ。頭が固くなつちやうんだね。いろんな国のことばを知るつていうことはそういう柔らかさを身につけるいひでもある。

